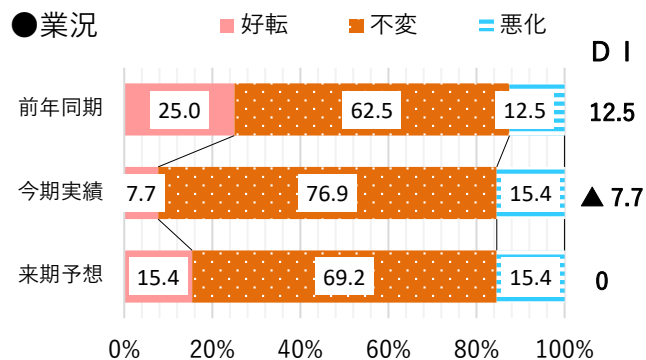


運輸・倉庫業

業況、売上、採算

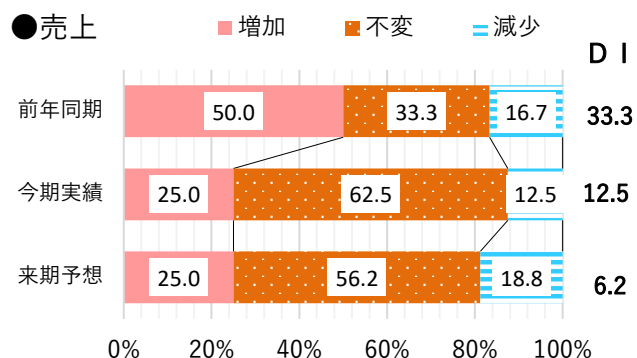
今期（2026.7～9）の業況DIは▲7.7で、前年同期（2025.7～9）と比べ20.2ポイント低下しました。

来期（2026.10～12）の業況DIは0で、今期（2026.7～9）と比べ7.7ポイント上昇すると予想しています。



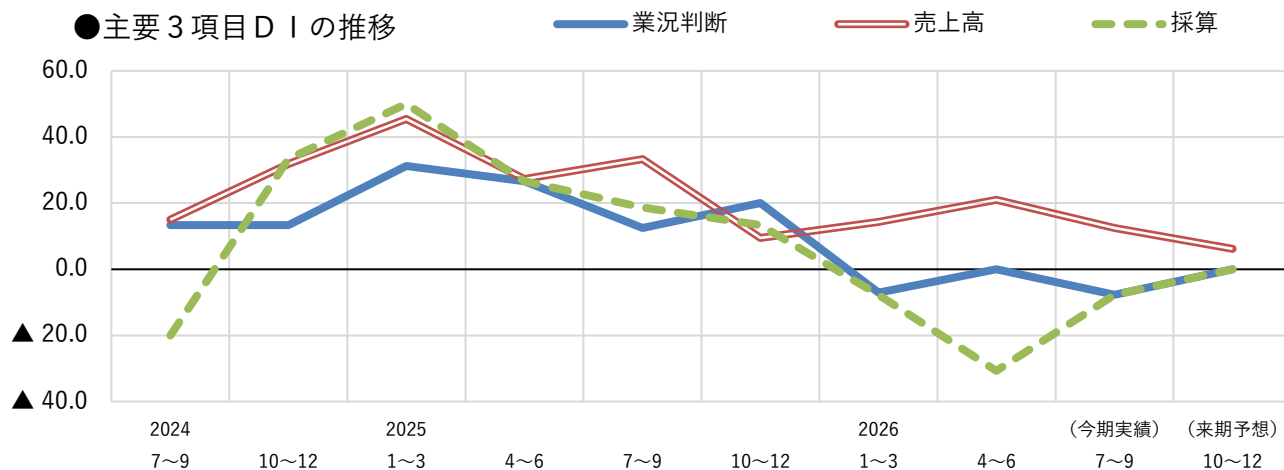
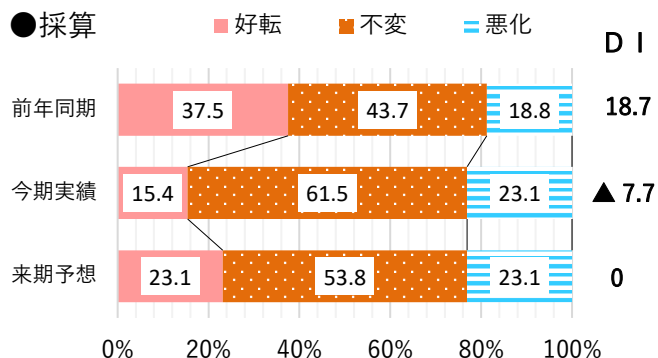
今期の売上高DIは12.5で、前年同期と比べ20.8ポイント低下しました。

来期の売上高DIは6.2で、今期と比べ6.3ポイント低下すると予想しています。



今期の採算DIは▲7.7で、前年同期と比べ26.4ポイント低下しました。

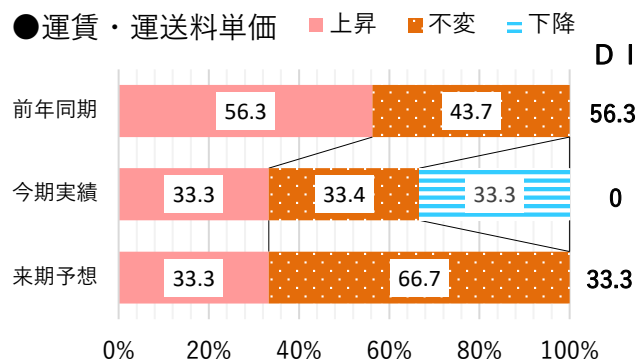
来期の採算DIは0で、今期と比べ7.7ポイント上昇すると予想しています。



運賃・運送料単価、保管料単価

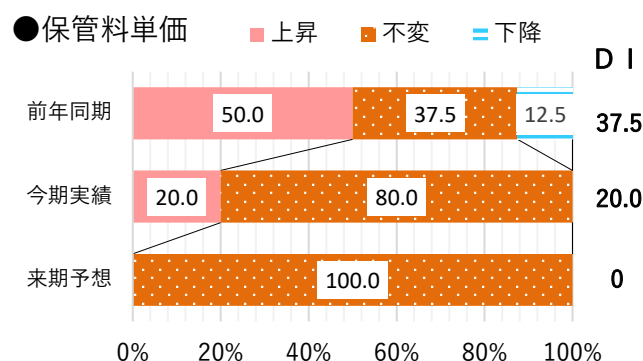
今期の運賃・運送料単価DIは0で、前年同期と比べ56.3ポイントと大幅に低下しました。

来期の運賃・運送料単価DIは33.3で、今期と比べ33.3ポイント上昇すると予想しています。



今期の保管料単価DIは20.0で、前年同期と比べ17.5ポイント低下しました。

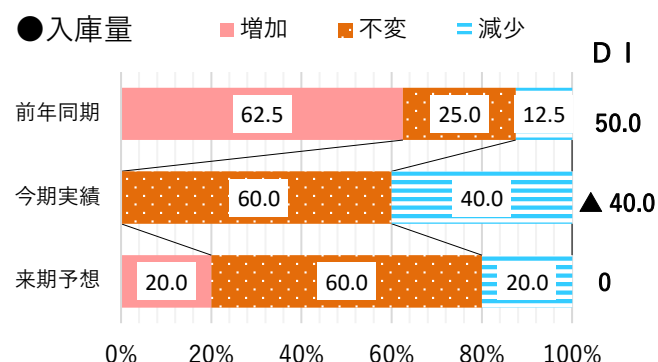
来期の保管料単価DIは0で、今期と比べ20.0ポイント低下すると予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

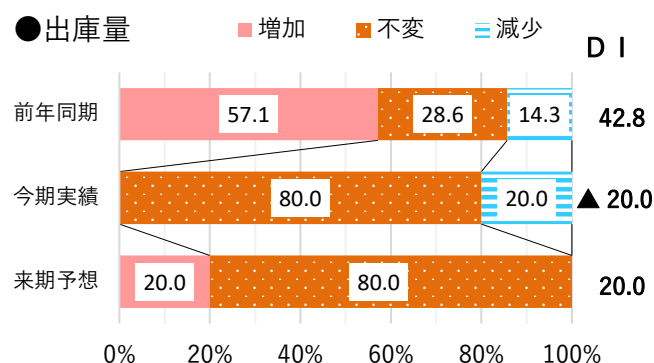
今期の入庫量DIは▲40.0で、前年同期と比べ90.0ポイントと大幅に低下しました。

来期の入庫量DIは0で、今期と比べ40.0ポイント上昇すると予想しています。



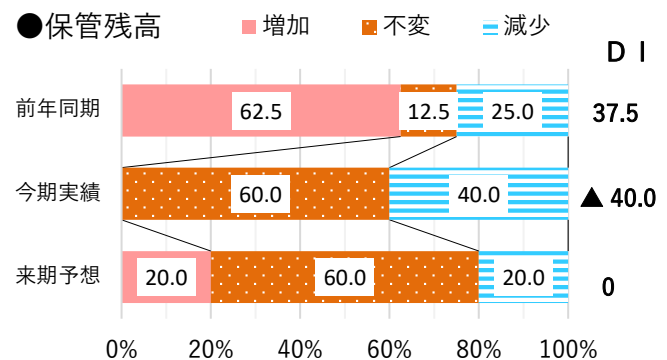
今期の出庫量DIは▲20.0で、前年同期と比べ62.8ポイントと大幅に低下しました。

来期の出庫量DIは20.0で、今期と比べ40.0ポイント上昇すると予想しています。



今期の保管残高DIは▲40.0で、前年同期と比べ77.5ポイントと大幅に低下しました。

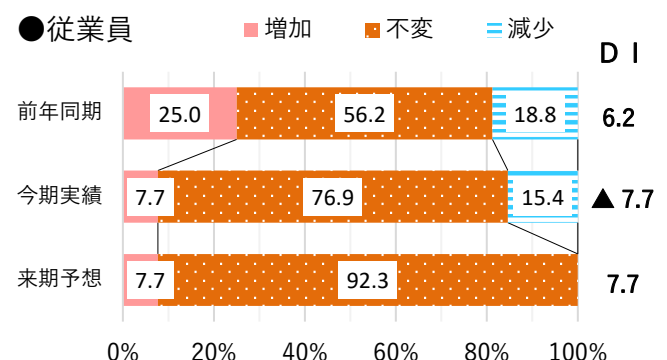
来期の保管残高DIは0で、今期と比べ40.0ポイント上昇すると予想しています。



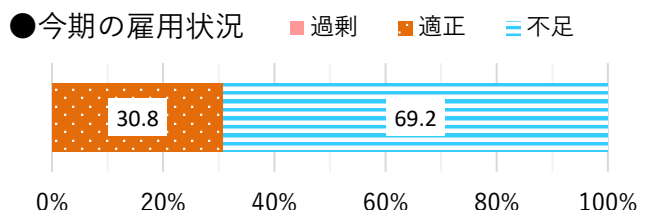
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲7.7で、前年同期と比べ13.9ポイント低下しました。

来期の従業員DIは7.7で、今期と比べ15.4ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は30.8%、不足していると回答した企業の割合は69.2%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足である」という回答で、46.2%を占めました。

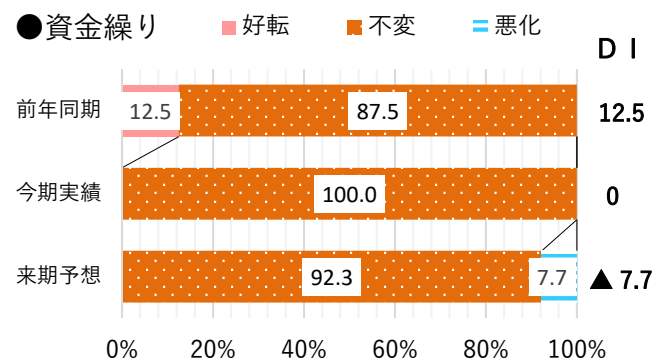
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	0%
	不足	7.7%
不変だった	過剰	0%
	適正	30.8%
	不足	46.2%
減少した	過剰	0%
	適正	0%
	不足	15.4%

※回答総数13社

資金繰り、設備投資

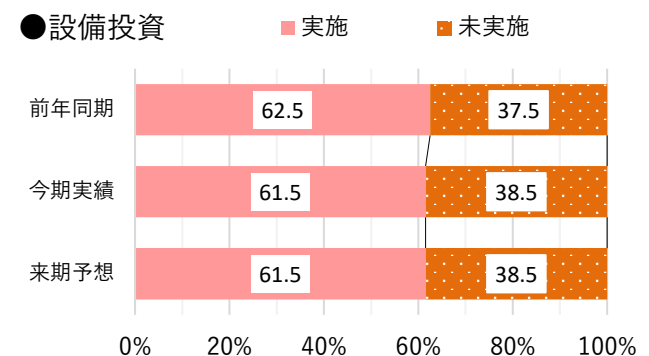
今期の資金繰りDIは0で、前年同期と比べ12.5ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは▲7.7で、今期と比べ7.7ポイント低下すると予想しています。



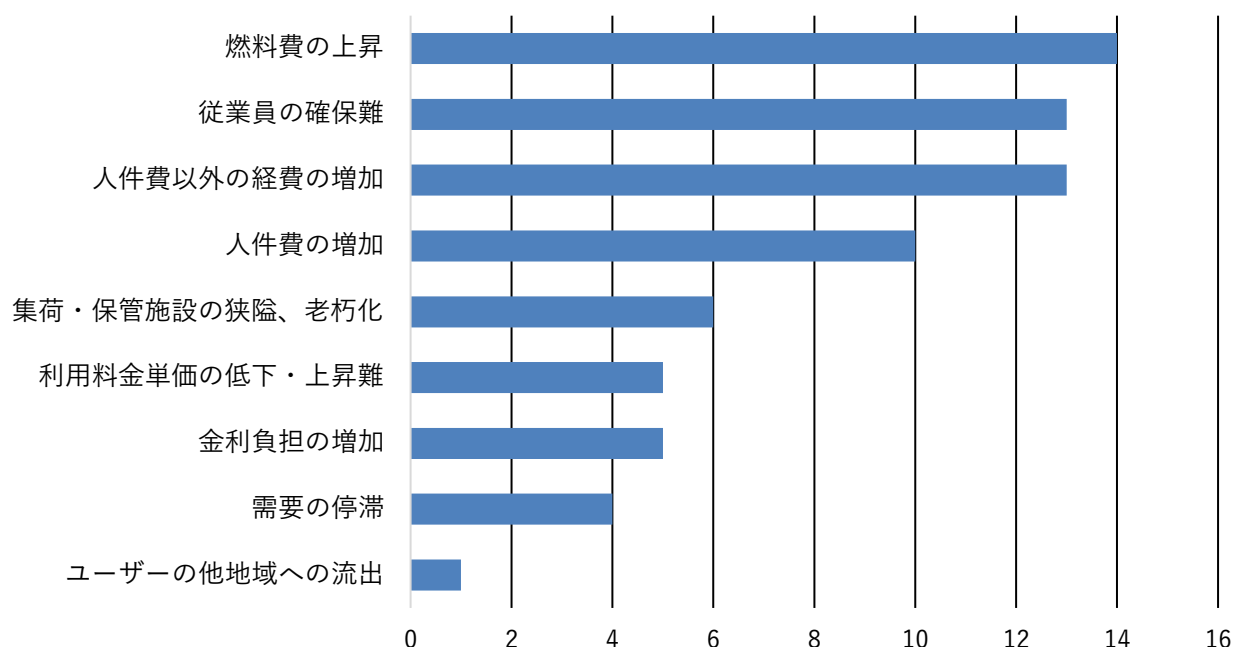
今期の設備投資は61.5%が実施と回答し、前年同期と比べ1.0%低下しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「集荷・保管施設」でした。

来期は61.5%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「燃料費の上昇」、2位が「従業員の確保難」「人件費以外の経費の増加」（同位）の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 市内客の需要は減少気味であるが、旅行客の需要が一定数あった。人件費などの費用の上昇が著しいので運賃単価を上昇させて対応した。（道路旅客運送）
- 利用数の減少や物価、人件費の高騰によって採算が悪化した。（道路旅客運送）
- 運搬需要の増加に伴い売上額は伸びているものの、外注費などの関連コストも増加しており、利益は大きく変わっていない。（道路貨物運送）
- 旅客数は減少したものの、運賃値上げの効果で売上は増加した。貨物は北海道の天候に恵まれ、8月以降の農産物が好調だった。人材面では退職がなく職場は安定している一方、男性職員が不足している。（水運）

[来期の業況について]

- 燃料費等の高騰が心配である。（道路旅客運送）
- 旅客は利用客数が前年並、売上は値上げ効果により増加し、人材については不変と予想する。（水運）